

第5回 長浜市産業文化交流拠点整備検討会議 会議録

【日 時】平成28年3月24日（木） 午前9時30分から午前11時10分まで

【場 所】長浜市役所 1階 多目的ルーム4

【出席者】◇参加者8名、市11名、コンサルタント4名 （敬称略）

滋賀県立大学	松岡 拓公雄 （座長）
長浜市図書館協議会	森川 裕子
長浜地区総合施設建設促進協議会	漣 泰寿
長浜ビジネスサポート協議会	押谷 小助
長浜観光協会	上羽 輝明
長浜商工会議所	伊吹 正弘
長浜市社会福祉協議会	伊藤 雅明
（公募市民）	大橋 優子

総務部	且本部長
財産活用室	嶋田室長 （事務局）
財産活用室	中島副参事 （事務局）
財産活用室	田中副参事 （事務局）
財産活用室	片山主査 （事務局）
市民協働推進課	川瀬副参事
生涯学習課	酒井課長
社会福祉課	堂村副参事
商工振興課	米田課長
観光振興課	前寫課長
教育指導課図書館運営室	川瀬室長

(株)日本設計関西支社	近宮、岸、小西
(株)地域経済研究所	井上

【欠席者】3名

立命館大学	岡井 有佳
淡海文化振興財団	北村 欣見子
（公募市民）	川村 美津子

【傍聴者】1名

【内 容】

1. 開会

2. あいさつ

（総務部長挨拶）

おはようございます。お忙しいなか第5回検討会議にお集まりいただき、ありがとうございます。本日は28年度当初予算を審議する議会の閉会日です。産業文化交流拠点整備事業

については、事業計画をもとに来年度から基本設計等に入るべく予算を計上し、審議いただきまして、本日採決に至ったところです。事業費等は今後詳細を詰めていくことになるが、事業計画が基本となって次年度以降の整備につながっていくと考えています。1年間、貴重な意見を賜りありがとうございました。今日は最終回ですが、次年度につながる議論をよろしくをお願いします。

(事務局説明)

- ・欠席者…立命館大学 岡井有佳 氏
淡海文化振興財団 北村欣見子 氏
公募市民 川村美津子 氏

3. 議事

- (1) 前回会議のふりかえりとその後の動き
- (2) 長浜市産業文化交流拠点整備事業計画の策定について
- (3) 意見交換

(事務局説明)

【資料1】第4回長浜市産業文化交流拠点整備検討会議での意見まとめ

- ・別紙資料のとおり

【資料2】長浜市産業文化交流拠点整備事業計画（案）にかかるパブリックコメントの実施結果について

- ・6人18件の意見提出があり、意見に対する市の考え方を回答した。(中央図書館と市内全体の図書館について8件、駐車場、駐輪場について5件、周辺道路交通について3件、旧市役所前庭の桜について1件、休憩・喫茶スペースについて1件)
- ・事業計画の大きな変更はなし。

座 長： ご質問等があればお願いします。

パブリックコメントの周知などはしているでしょうが、数が少ない。意見が1人3件ずつとは限らないと思うが、数のばらつきはどうか。

事務局： 5件程度の意見を出された方もおられたが、概ね1人1件。同じような内容でいくつか分かれた意見をいただいた。

座 長： 貴重な意見なので配慮しないといけませんが、数が少ないのが気になる。既に公表しているのか。

事務局： 市ホームページで公表している。

(事務局説明)

【資料3】【資料4】長浜市産業文化交流拠点整備事業計画

- ・本編23頁、諸室面積表で、産業支援エリアは関係団体との連携の可能性があることから、今後面積の変更が予想されるということを欄外に加えている。
- ・共結スペースを図化したイメージ図は、前回会議での意見等をふまえて割愛した。
- ・50頁、管理運営手法(2)管理運営主体②中央図書館機能内の文言「市内6館の体制」を「複数館の体制」に変更。
- ・事業計画は基本設計の基本となる。周辺環境や合築・分棟の取扱い、配置イメージの評

価、駐車場の整備手法の評価、施設の平面規模の検討等、長浜市として注目していることをまとめた。

- ・敷地に対する施設配置パターンも複数案を評価する形で、設計段階での創意工夫を期待し、いろんな可能性を残している。
- ・明確に階数、面積を決めているわけではないが、事業計画から大きく外れることもない。

座 長： 修正箇所はわずかなので、前回、案として説明を受けたものとほぼ変わらない。ご質問等があればお願いするが、スケジュールについて、建築の場合は基本設計の前に基本計画があるが、それは含まれていると捉えていいのか。

事務局： はい。

検討会議を進めるなかで、基本設計で織り込む内容のご意見を多くいただいている。来年度から始まる基本設計、その後、実施設計、施工と進んでいくので、そのあたりを事務局から説明し、ご意見をいただきたい。

座 長： わかりました。

事務局： 市では、28 年度組織編成方針を公表しているが、来年度は産業文化交流拠点整備室が設置され、そこで基本設計等を進める。基本設計の具体的な仕様は来年度に公表していくことになるので、あくまで一般的なものとして説明する。

基本設計では設計事務所の力を借り、配置図、平面図、立面図、断面図等を作成する。図面を作るにあたり、検討会議や市民の方のご意見をいただきながら、建物の形、分棟といったことが明確にされていく。配置は何階にどう配置するのか、面積は 6,200 m²に 300 m²の増加が見込まれているが、基本設計のなかで確定していくことになる。外構としては、駐車場、バス乗降所、緑化計画についても確定していく。内装や外装の計画も具体的に進めていくので、パースを作成し、お示しすることになる。構造については、まだ具体的に整理できていないが、基本設計で決めることが考えられる。

また、設備については、照明や防犯カメラ、ネットワーク、サイン等も決めていく。太陽光等自然エネルギーの利用、空調設備等の機械設備の計画も示す。市役所庁舎では熱源として電気と熱を併用しているが、導入のメリット・デメリットも整理して決めていく。本庁舎跡地にある井戸の利用等についても検討していくことになるかと思う。それから、工事費の積算についても整理していく。全て紹介はさせてもらっていないが、一般的に基本設計ではこういったことをまとめていく。

検討会議では出ていないが、庁舎跡地の土壌調査の結果、基準値を少し上回る鉛が出ている。その鉛の除去等の対策についても整理をしていくことになる。現時点では設計の部分に織り込むことを想定している。

その後、実施設計と施工になる。一般的には実施設計を行ってから施工を別に発注するが、今回は工期の短縮や単純な価格競争にならない形で入札しやすい方法として、実施設計と施工を組み合わせたデザインビルドとして進めていくことを事業計画で示している。分棟の形や管理、権利形態によって、発注元の整理をしていくことも必要になってくるかもしれないが、現時点ではデザインビルドを想定している。入札方法はプロポーザル等いろんな方法があるので検討して、発注し、28 年度から 29 年度にかかる形で基本設計を予定している。その後、デザインビルドを実施し、31 年度の供用開始を目指していきたい。

そのなかで、来年度も検討会議の発足を予定している。今年度のメンバーの任期は 3 月

31 日までとなり、来年度は新たに選任していただくことになる。再任されることもあるかもしれないが、現時点で未定となっている。

座 長： 建物を 1 つ建てるのは大変なことで、土地の状況や気候、経済状況、インフラ、自然環境、のほか市民の声をふまえて形になっていく。次の検討会議でもメンバーがきちんと考えていける会議にしてほしい。基本設計もわかりやすく進めていかないといけないかと思う。

ここからは意見交換になるが、私が気にしているのは、基本設計後、デザインビルドとなる。設計者と施工者が一体となって、コストコントロールとスケジュール管理をし、全責任を持つ。今まではポンプ場や下水処理場などではデザインビルドをしていた。公共建築ではあまりなかったが、最近増えてきた。予算や工期を抑えるのに重要なことかもしれないが、基本設計がとても大事になる。ここで市民の声を全部入れていかないと、その後は予算で縛られてくる。コストが上がる危険性もあると一般的に言われている。そのもの自身が魅力ある長浜の新しい顔になるので、そういったところをきちんと基本設計でしないといけない。基本設計業者の選定時にプロポーザル方式がある。登録している設計業者が実績によりランク付けされている。この建物のレベルになると A ランクレベルになるが、A ランクのなかでどこでも同じような業者が出てくる。大手の設計事務所が占めることが多いが、建築文化を盛り上げていくためにも設計者を若い人たちにもチャンスを与えられるようにしてほしい。

このメンバーでの会議は今回で終わりだが、次につないでいくために、ご意見等はあるか。

委 員： 新たな組織は総務部のなかでできるのか。

事務局： 今までは総務部財産活用室の業務の 1 つとしてやってきたが、来年度からは市民協働部に 1 つの課として産業文化交流拠点整備室が設置される。

委 員： 新たな検討会議はどういう形で考えているのか。基本設計、実施設計を進めていくなかで、メンバーをある程度替えていくのか。

事務局： 今年度の立場からですが、関係団体、公募市民、学識経験者の方からという考えで進めていきたいと考えている。事業計画をもとに基本設計を進めていくことからすると、関係団体としては大きく変わらないので、そのなかから推薦いただく形は今年度と同様になってこようかと思う。

委 員： 基本設計については期間短縮できるのか。

事務局： 現時点での考え方が、検討会議で多くのご意見をいただいたことは、進めていくうえで大事なことだと思っている。ワークショップは事業計画では一度開催したが、これから進めていくなかでも市民のご意見をいただきたい。また、共同事業者様や運営を担う方々とも話をし、基本設計を進めていきたいので、しっかり意見を汲み取った形にしていきたいと考える。そのなかで一定の期間を想定している。現時点では短縮ということ以上にしっかりと意見をもらい調整することに時間を割いていきたいと思うので、ご理解いただきたい。

委 員： この事業は市民目線でやっていかないと難しい。市民の目線には立つが、パブリックコメントで、30 人、50 人から意見が出る可能性は少ない。意見が出てこないなかで進めていけないといけないが、その結果、よいか悪いかだけで判断されるのが一般的。いろんな人の意見を聞くことは大事だと思うが、全部の意見を吸い上げるとコスト面や期間で問題が多かろうと思う。市民目線に立ったなかで、検討会議の委員がベストなものを出して進めていかないと全て汲み入れることはとてもできるものではない。そういったことを基本におきながら考えていかなければいけない。

座 長： 業者選定も 1～2 ヶ月かかる。意見もワークショップ等で拾えるところは拾おうというこ

とだが、今の期間でも、調整して、きちんとデザインしようとするときついかなと思う。

委員： この間、県立大学の課題発表を見に行ったが、大学生は、利用者の使いやすさ等を考えて、お金を考えなければこんな立派なものができるのかというものだった。小学生やお年寄りなど、突拍子もない意見を言ってくれる人に意見を聞いたほうがいいと思った。サロンなどでお年寄りの話を聞くと、編み物をしながら居ても怒られない、お金を払わなくてもよい場所がいいとか聞く。そういう意見を聞いてもらえる場所をつくってもらえるとありがたい。

座長： この前、学生の課題発表で作品を 20 案くらい発表した。コストと法律を無視して形にしているが、なかにはいい案もあり、イメージを掻き立てられるような案も出してもらったが、そういうアイデアにヒントがある。

個人個人が居場所を見つけられるようなところが親しまれるので、意見の吸い上げが必要だと思う。設計のなかで、そういう声を入れていけるように、次の検討会議でも代表として声を拾ってきていただきたい。立場を超えて意見を出すことも心がけていくしかないかなと思う。ワークショップでも子どもを対象とするなど、趣向を変えるとおもしろい。実現はしないかもしれないが、形や素材など、どこかに現れてくると思うので、大事にしてほしい。

委員： 建設費用には合併特例債はどのくらい使われるのか。

事務局： 補助金は事業費の 1/3 以下が対象、補助にならない部分について、合併特例債は事業費の 95%を借金でき、そのうち 70%が国から還ってくることになる。

委員： 合併特例債は長浜とびわ、浅井の合併時の特例債なので、それを全体で使う時に、特にびわと浅井は合併のデメリットもあることを認識しながら合併特例債があるので合併をした経過があるので、びわと浅井にもこれを建てるのに合併特例債を使うことは告知していただいたほうがいいのかと思う。

もう 1 点、デザインについて。旧市役所の跡地なので、長浜市の顔みたいな形にしていきたい。外観デザインもそれなりのものを、長浜市に合うようなデザインをお願いしたい。

滋賀県の経済は南高北低で、大津に経済支援施設が全てある。北部には施設が少ないので、この施設に分所を持てきたい。彦根もジェトロの彦根支部、国際貿易の拠点を誘致され、湖北の経済の中心が彦根に行ってしまうと、米原より北の経済の疲弊が進むかも知れないので、長浜としても滋賀県の北の経済の中心になるということを内外にアピールしたい。今回の建物に分所が入るのは大きなチャンスだと思うので、基本設計と同時に、ビジネスサポート協議会や商工会、商工会議所と話をし、長浜市と連携して早急にどの機能を入れるのか話をしていけないといけな。この会議とは別にそういう議論ができる会議を持てほしい。

委員： 産業創造センターは約 400 m²と、欄外に機能充実のために約 300 m²の追加を入れてもらったが、経済関係は職安も含めて全てが彦根より南に集約される環境に置かれているので、ぜひ、大学のサテライト、職安等、そういう機能をできるだけたくさん入れていきたい。商工会ともども、市の産業経済部にも協力いただき早急に詰めなければならないと考えている。商工会議所と商工会、市の三者で進めていくという顔を出していきたい。産業創造センターとは何だとならないよう、こういう機能を持ていきたいということを皆さんに十分理解してもらいたい。図書館、公民館は機能も面積もわかるが、各セクションで具体的にこういうものだとお示しいただかないと基本設計もできないし、我々も委員の一人として知っておきたいと思う。

我々はどういう機能を入れていくか、県とも話をしている。大学も協力してやっていこうとご意見をいただいている。早急に長浜の経済文化の発展のためにやらなければならないと

いう熱意を持って語っているので、それぞれの機能がどういうふうにやっていくのか、具体的なプランを持ってほしいと思う。

座 長： 今は面積の確保をしたので、基本設計に入る前の時間で、それぞれの立場の方が内容に関して具体的に検討をされて、それをまとめていくのが設計者等の力。設計者だけでなく皆さん一緒になって盛り上げていこうというふう話だと思う。

委 員： 職安は彦根に持っていくという話もある。長浜としてはこの建物にいつでも入れることをアピールしないと、ますます若者が定着しない長浜になる可能性があるかと思う。検討会議の最初に、職安は入らないとはっきり言われていたように思うが、ぜひここに持ってきて欲しいというアピールを並行してやらないといけないと思う。

関係課長： ハローワークの考えもあるが、市として重要な施設が無くなるのは損失になるので、施設の有効活用としてそのまま入るのかも含めて検討しないといけないが、調整し、市としていつでもラブコールを起こせる体制にし、ハードを備えていくだけでなく、いろんな支援をできる場所がここにあるということで、市民の皆さんに期待してもらえそうな施設に思っている。

委 員： 具体的に進めていきたいと思うので、市と我々と協力し、できる可能性を求めてやっていけないといけない。

委 員： 私はアールブリュットにも関わっているが、アールブリュットも南に行ってしまい、なかなかこちらで開催されることがないので、アートインの時だけ作品を飾るのでなく、図書館に飾るとか、普段から市民の皆さんの目に触れるような形にしたいと思っている。

委 員： 産業文化交流拠点の文化という視点も大事だと思う。まだ形が見えていないのが一番の問題。新しい室ができると、どうしてもそこにお任せみたいになってしまう。本来、図書館などは自意識を出して主張するべきだと思う。公民館なども貪欲に言い、基本設計の時には設備や場所取りの問題になっていくので、もっとどろどろとした、そういう会議が一番大事だと思っている。それがないと市民の使い勝手のいい形になってこないのと、とことん本音でしゃべっていける会議が別に当然あって然るべきだと思う。そこで出た話を検討会議のなかですり合わせるものがいるのかと思う。

座 長： 皆さんの思いがあるので、それを吸い上げていくようにしておかないといけない。市民がつくるという意識で、皆さんぜひ尽力していただきたいと思う。

委 員： 基本設計に入る段階でより具体的な話になると思うが、今後、組織の意見を集約してこういう機会があれば話をさせていただけるように努めていきたい。

産業文化交流拠点ということだが、今後の計画で愛称とか親しまれる施設としての名称を考えているのか。

事務局： 事業計画のなかで決めておくべきではないかと思っはいたが、事業計画は盛りだくさんな内容なので、反映することはできなかった。今後、基本設計で皆さんにご意見をいただくうえでもこういう名前で進めることはあまりいいものではないと思っている。名称についても今後速やかに決めていく場を設けて、名前からなじんでいただき、考えていけるような進め方をしたいと考えている。

委 員： これからの話になるかと思うが、名前も決めていかないといけないと思う。計画を作り、建物を建てていくなかで、図書館や公民館が古くなったので集まって新しくなったというだけのものではないといけない。コンセプトにある人・文化・産業を創造する知の拠点が本当にできるのか、これから造っていくなかで考えていかないといけない。文化や産業、交流を創造す

る、人が集まる建物がどういうものかまだ想像もつかないが、市内だけでなく外部の方が集まってくるような、ハード的なものだけではなく何か今までになかった新しいものを造っていかなければいけないと思う。

座 長： 建物の建築だけでも、すごくおもしろければそれだけで人が集まってくる。黒壁とかはあるが、これを見に行こうという建築は意外とないので、これがチャンス。形も権威のあるような建物だと引いてしまう。ずっと入っていけるようなものが建築でも表現できると思う。

委 員： 市民目線で使いやすいものがいい。北部からもぜひ使ってほしいと思う。車での利用になると、駐車場がゲート式になると敷居が高い。今までより不便だというイメージを持たれてしまうのはもったいない。利用しやすいのが大事。図書館の事業は無料で事業をしている。公民館・市民活躍スペースの利用が有料になるといろいろな問題が出てくると思うので、市民にとって新しいものができて、前よりも使いやすく、いいものを造ったと思ってもらえる施設をぜひ造ってもらいたい。

座 長： 気楽に入れるのは重要なポイントだと思う。格式張っていると行きづらい。

委 員： 駐車場はゲート式で決まっているのか。

座 長： まだ決まっていない。ただ、誰でも入って勝手に止められるのを防ぐためには何か対処する必要がある。

委 員： 今回の建物は、図書館で評価される部分があると思う。図書館については、開放的な、従来の図書館というイメージではなく何がいいかということを含めて検討しないと、自分のセクションだけでものを言うのではなく、この建物の中心は、面積が2,700㎡くらいある図書館なので、一番大きなポイントだと思う。これを抜いて、それぞれが言いたいことを言ってもよいものはできないと思う。図書館に中心になって考えてもらわないといけないのは事実だが、もっと我々も図書館の勉強をして考えていかないと、市民の目は図書館にいく。ここに視線をあて図書館のあり方をしっかり考えていかないといけないと思う。

座 長： 今の話は知見の高い話で、それを実現しようとする、コンペをやったほうがいいと思う。図書館をどうするか、アイデアをどうまとめるか。学生の話になるが、人が集まるところが図書館なので、図書館が全部をつなぐというアイデアがあった。ホールやロビーが図書館。シアトルでも実際にそういう図書館ができて、お茶飲みだけに入ってくるというものもある。それは機能的に今回の建物と似ていると思っている。ここから先が図書館とセキュリティの関係で区切られているものもあるが、それがつなぐ役割を果たすということになると、形や動線や機能などの条件を与えたコンペにするとおもしろいものを出してくる。今のご意見を生かせるような形を議論していかなければいけないが、実現する手法としても何か考えたほうがいいかと思った。

委 員： 図書館にホテル、本屋にホテルが付いたものも人気がある。

座 長： 美術館のなかにレストランにあり、食事もパーティもできるようなところもある。図書館でパーティや結婚式ができるようなものもおもしろい。機能が複合化するが、複合の仕方として単体がただ集まったものでなく、それぞれの立場も持ちながら、にじみ出しあってつながっていく。その造り方がおもしろいものができると思う。建物自身が建築としてアピールできるかもしれない。そういうプロジェクトになると思う。

委 員： 学生さんの案には、壁がスクリーンになるとか、お祈りができる場所があるとか、突拍子もないが、思いつかなかったようなことがたくさんあった。

委 員： 図書館も学校の近くなので、学生が対象になる可能性がある。一番利用するのが図書館。

これをどういうふうにすればいいかをふまえてやっていかないといけない。いろんなところに視察に行くべき。いいところが何かあるので、聞くだけでなく見るのが大事。

座 長： 学生の場合には、近くに学校があるので、ブリッジで繋げてしまって、ブリッジのなかにも図書館が入っているという案もあった。

委 員： 先ほど駐車場についてはゲート式と勝手に言ってしまったが、51 頁にゲート式等の入退場管理が可能な設備と書いていたので、今までみたいに勝手に止めて勝手に出て行くのではなく、何か制限がかかると思うので、使いやすさは考えていただきたいと思う。

おしゃれな図書館も魅力を感じるが、本来の図書館の機能だけは失わないで、知の拠点の機能はふまえたうえで、行ってみたいという図書館ができるといいと思う。

座 長： 図書館も 30 年後にはどうなるのかと考えてしまう。活字自身が必要なくなっている。図書館を中心に考えると、これからはかえって本が検索機能のものに変わるなど未来的な発想になってくるかもしれない。

委 員： 最終的に緊急避難場所的に活用できる場も若干あってもいいかと思う。

4. その他

5. 閉会

事務局： 今回のご意見のなかでも出ていたが、並行して、運営、ソフトの部分を基本設計と並行してどうしていくか考えていきたい。

このまま会議を続けていけば、各団体や個別の立場から脱して施設全体の話に及んでいくのではないかとこのところでは今日は終わりなので非常に残念ではあるが、こういういろんな意見を出していただいたからこそ、そのなかで自分の立場ではない機能や施設全体を考えられる状況になってきたのではないかと思う。皆様が引き続き、来年度もご参加いただければもっといろんなご意見をいただき反映していくことでよい施設ができるのではないかと考えている。来年度からもいろんな意見をいただきながらよい施設を造っていくために努力をしていきたいと考えているので、これからもよろしくお願いします。